



初等部だより 6月号

鎌倉女子大学初等部

令和元年5月30日

第3号

全力で取り組んだ先に見えてくるもの

部長 勝木 茂

暑過ぎず寒くもなく、最高の天気となった5月18日(土)、『かけぬけてゆく 勇気と希望 勝利のにじ色 ファンファーレ』をテーマに令和元年度の初等部運動会を行うことができました。



当日は、早朝より保護者をはじめとするたくさんの皆様にご来校いただき、閉会式に至るまで、子どもたちの競技や演技に心あたたまる拍手や声援をいただき誠にありがとうございました。また閉会式後の後片付けにおいても、たくさんの保護者ボランティアの皆様にご協力いただきありがとうございました。

今年度より、暑さ対策(熱中症予防)を最優先するため、実施時期をこれまでより3週間早めることにいたしました。一年生にとっては入学して24日目の登校日が運動会となることもあり、健康・安全面もふくめてどれだけのことができるのかという不安もありましたが、一年生の椅子の出し入れは六年生が、「ダンス DE ポンポン」等の競技や演技では、一緒に行う二年生がやさしくサポートしてくれました。もちろん他の学年の子どもたちも年度初めの限られた練習時間の中で、よくがんばってくれたと思います。

開会式の中で、わたしは子どもたちに「全力でやること」を伝えました。運動会のように学校全体で行う学校行事は、望ましい集団活動や感動体験を通して、望ましい人間関係を形成したり、学校集団への所属感を深めたり、公共の精神を養い協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成したりすることを目標としています。

(下線部分：文部科学省 小学校学習指導要

領解説特別活動編 参考)

「全力でやる」「今、自分のもっている力を全部振り絞って取り組む」このことは、特に成長過程にある子どもたちにとって大切なことだと考えます。運動会をその練習もふくめて全力で取り組むことにより、例えば、最初は上手くいかなかったダンスが自分でも満足できるまでになったとき、「わたしって結構がんばれるんだ」「ぼくはダンスとか苦手だと思っていたけれども、結構やれるんだ」という『がんばれる自分』に気付くことができます。もちろん、それらの過程においては、教師や保護者等の適切な励ましや助言が必要だと思えます。そして、これらの繰り返しにより自己肯定感が徐々に生まれ、肯定的な自己概念が形成されていくものだと思います。また、例えば「一位になりたい」との思いで一生懸命に練習して徒競走に取り組み、一位になれなかったとき、「あの子も凄いな」「わたしももっとがんばろう」と思うことができるかも知れません。その他、全力で取り組むことにより、「自分の取り組み方」を振り返ることができたり「次の自分の目標」が見えてきたりします。そして、これらの先に心から「感謝」の気持ちが自然とわき上がってきたとしたらそれはとても素晴らしいことではないでしょうか。閉会式で応援団長の言葉は、まさにそのことを表していたと感じました。



今後は、運動会を通して育った力を日々の授業の中でいかしていけるよう取り組んでいきたいと考えます。また、いただきました「運動会アンケート」は、今後の教育活動や次年度の運動会にいかしていきたいと思えます。

ありがとうございました。